

『地域清掃』 野芥校区老人クラブ連合会

野芥校区は、昭和51年4月に野芥小学校の新設に伴い誕生しました。その後、昭和57年に、「住んでよかった」と思えるまちづくりをしようと各種機関・団体が一堂に会し、「住んでよかったそんな街に」をテーマに「野芥サミット」が始まりました。

このサミットは、「それぞれの団体が単独で活動するよりも、他の団体と協力すればさらに効果が上がるのではないか?」「他の団体の問題・課題を知ることは明るい住みよいまちづくりの推進につながるのではないか?」との思いで、現在も年度当初に開催しています。

サミットの趣旨を受け、複数の団体が集まって協力して活動している事例の1つに、野芥校区老人クラブ連合会があります。同会の宮成鏡二会長によると、昭和61年4月に発足し、現在、校区内の老人クラブ10団体で構成された連合体で、489人の会員を有しています。



グランドゴルフ大会前の油山中央公園清掃

同会は、30年の永きにわたり地域の環境美化を率先するほか、子どもの見守りなど、安全・安心なまちづくりにも活躍の場を広げています。発足当初は、道路清掃・空き缶拾い・除草作業から始め、現在は油山川・金屑川の河川清掃、櫛田神社の除草・清掃（年2回、参加者各3~40人）、油山中央公園の除草・清掃（年3回、参加者各100人超え）などを実施しています。安心して活動に参加できるように団体保険に加入し、万一の事故などにも備えています。

また、10年程前から「ついで隊」を結成し、毎日の登下校時の交通安全などの見守りや、パトロール中にごみや空き缶の回収を行っています。

会の活動の長続きの秘訣は、無理をしないこと、年間の活動日程を早めに計画すること、連絡が確実に行き渡るような体制を整えることとのことです。



「ついで隊」のパトロール風景

『ペットボトルを利用した植木鉢』 緑のコーディネーター吉松晃子さん

西新公民館の正面玄関には、四季折々の彩り鮮やかな花が咲き、公民館を訪れる方の目を和ませています。

その中で特に目を引くのが飾り棚の花です。この花の植木鉢は透明なペットボトルを再利用したもので、水を与えると土に水が染み通って行く様子が見えます。

これを制作したのは、早良区曙在住の吉松晃子さんです。吉松さんによると「ペットボトルを再利用してお金をかけずに植木鉢を作り、透明な鉢の中の土に植物が根を張って成長していく過程を観ることで自然を愛でる心を養うことができ、結果として子どもたちの情操教育に繋がる。」とのこと。

吉松さんは、2年ほど前から公民館の花の手入れを任されています。以来、公民館で「ペットボトルを使った花飾り」の講座や、百道浜小学校留守家庭子ども会で、ガラスの器に好みの4色の砂



西新公民館の正面玄関

を交互に重ね、その上に観葉植物のパキラを植えた「カラーサンドアレンジ」の講座をするなど、体験講座の講師として活動しています。また、企業と共働で、スポンサー花壇による花のまちづくりにも活躍の場を広げています。

そのほか、日本ハンギングバスケット協会に所属し、「ハンギングバスケット・コンテスト 2012in うみなか」や「福博花しるべ 2016 ガーデニングショーハンギングバスケットコンテスト」などで受賞しています。

吉松さんは、緑化イベントの運営や地域の指導者としての知識などについて学ぶ講座を修了し、「福岡市緑のコーディネーター」に認定されています。



緑のコーディネーター吉松さん

福岡市緑のコーディネーターに講師などをお願いするときは下記へ。

【問い合わせ先】

公財) 福岡市緑のまちづくり協会 みどり課
電話 092-822-5832

から成虫になるまでを飼育、観察しています。えさが不足すると共食いを始めるなど飼育が大変であるとのこと。毎年成虫になると自然に帰しています。

また、小学校では、平成 15 年からヒナモロコの飼育を行っています。ヒナモロコは、コイ科に属する全長 6cm 程度の魚で、中国や韓国などアジア東部に広く分布しています。高度成長期の昭和 40 年代後半以降、都市開発が進み水質汚濁等の影響を受け、福岡市では、昭和 54 年に多々良川で確認されたのが最後です。

環境庁編「日本の絶滅のおそれがある野生生物 (1991)」で絶滅危惧種とされ、現在では、久留米市周辺のみで生息が確認されています。小学校で飼育されているヒナモロコは、久留米市周辺で発見、採取されたもので、絶滅を危惧した旧田主丸町の特定非営利活動法人ヒナモロコ里親会から分けて貰いました。

ヒナモロコ拡大↓



水槽内を泳ぐヒナモロコ

この活動の指導にあたっているのが、内野小学校 P T A と、内野校区自治協議会の深川初弘会長です。同 P T A は、平成 28 年 3 月に特定非営利活動法人ヒナモロコ里親会のヒナモロコ繁殖技能士の認定を受けています。また、深川会長は同会の会員でもあり、活動当初から指導に当たっています。深川会長によると飼育する上で、特に水温を 25℃以下に保つことが難しいとのこと。小学校では、5、6 年生が飼育し、現在 500 匹以上に増えています。

地域と学校の密接な連携のもと、これらの活動を通じて、子どもたちに自然環境を守ることの大切さと自然を愛する心を育てており、平成 21 年度福岡市環境行動賞最優秀賞(学校部門)を受賞するなど高い評価を受けています。

『ゲンジボタルとヒナモロコの飼育』 内野小学校

内野校区は、都会の喧噪けんそうから離れた清流と緑にあふれる背振山系の麓に位置し、自然環境が豊かな地域です。

同校区では、昭和 30 年代後半からの河川護岸工事や山林への違法造成等の影響で、従来から生息していた生物が激減しました。



当番がヒナモロコにエサを与えている様子

このため、30 年程前から地域住民と小学校が共働し、ゲンジボタルの飼育を行っています。

ゲンジボタルは、清流に生息していますが年々その生息域が狭くなっています。内野小学校では、ゲンジボタルの成虫を 6 月頃捕獲し、4 年生が卵